

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071601258
法人名	学校法人 久留米ゼミナール
事業所名	グループホーム 国分つつじ苑
所在地	福岡県久留米市国分町403-3番地 (電話) 0942-22-2018

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年6月28日	評価確定日	平成19年8月23日

【情報提供票より】 (平成19年6月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 7月 20日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 4人, 非常勤 6人, 常勤換算 8.25人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,400 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (10,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年6月12日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 78.5 歳	最低	60 歳	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	渡辺医院・新古賀病院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近隣に専門学校があり、周囲には緑が多く静かな住宅地に事業所はある。事業所の玄関先に植木が植えられ、木々の緑が心を落ち着かせてくれるものとなっている。事業所内が外から見えないよう一部をスタンドガラスにし、常時軽音楽を流す等、居心地のよい空間作りに配慮している。「良いことも悪いことも含めて人間関係の中で暮らしていくことを大切にしたい」との思いで、全職員がケアの充実に努められ、穏やかな空間と時の流れに、利用者が安心して過ごしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題について、管理者は全て改善計画を立て、職員と評価の意義や活用について話し合い、鍵をかけないケアの実践等、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は苑長や管理者のみで取り組んでいる。全職員で評価の意義や目的を理解し、協議する等して自己評価に取り組んでほしい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会を開催し、利用者の状況、サービスの内容等を報告し、委員からの質問、要望等を会議録に記録している。道路に事業所の案内目印を設置する等、そこでの意見をサービスの質の向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族会はないが、運営推進会議や家族の訪問時に積極的に苦情や要望を聴き、それを全職員で共有して、改善に努めている。居室の換気や空気の流れに配慮する等、意見を運営に反映させている。また、苦情について、第三者窓口を明示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入している。ホーム便りを回覧板で回覧し、食事会や草取り、敬老会等、各種行事や催し物に参加して、地元の人々と交流することに努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	分かりやすく優しい言葉で事業所独自の理念を掲げているが、地域密着型サービスについての視点が含まれていない。	○	全職員で協議等を行い、地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者職員は毎朝礼時確認し、理念の実践に向け取り組んでいる。	○	地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげて、それを全職員で共有し、理念の実践に向けて、日々取り組んでほしい。
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。ホーム便りを回覧板で回覧し、食事会や草取り、敬老会等、各種行事や催し物に参加して、地元の人々と交流することに努めている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は苑長や管理者のみで取り組んでいる。前回評価での改善課題について、管理者は全て改善計画を立て、職員と評価の意義や活用について話し合い、鍵をかけないケアの実践等、具体的な改善に取り組んでいる。	○	自己評価においても、全職員で評価の意義や目的を理解し、協議する等して取り組んでほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を実施し、利用者の状況、サービスの内容等を報告し、委員からの質問、要望等を会議録に記録している。道路に事業所の案内目印を設置する等、そこでの意見をサービスの質の向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>必要に応じて行政担当職員には相談している。現在は成年後見制度の利用について相談している。</p>		
7	10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度のパンフレット、テキストがコピーし、職員に配布している。管理者は制度の活用ができるよう利用者や家族に支援している。</p>	○	<p>制度に関する研修の機会を持ち、利用者や家族への情報提供ができるよう、全職員の制度への理解を深めてほしい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
8	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>2ヶ月に1回、ホーム便りを発行し、近況の報告をしている。家族の訪問時に、健康状態や金銭出納帳の確認をしてもらう等、個々に合わせた報告をしている。</p>		
9	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会はないが、運営推進会議や家族の訪問時に積極的に苦情や要望を聴き、それを全職員で共有して、改善に努めている。居室の換気や空気の流りに配慮する等、意見を運営に反映させている。また、苦情について、第三者窓口を明示している。</p>		
10	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は最小限に抑えている。やむを得ず代わる場合は、新任職員と利用者の馴染みの関係が出来るまで管理者がフォローし、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>苑長及び管理者は、職員の募集、採用にあたっては、介護への思いを大切に、性別や年齢による排除をしていない。職員への対応についても、気持ちを傷つけないよう尊重して接するように努め、意見や要望があれば、職員専用の目安箱を活用するよう配慮している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>日頃から、利用者の尊厳や人権を尊重することを全職員で心がけ、対応している。人権に関する資料はあるが、内部または外部研修への取り組みはない。</p>	○	<p>内部または外部研修への参加の機会を設けて、人権教育を実施してほしい。</p>
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、職員がスキルアップしていくための外部研修や育成計画を立てるまでに至っていない。</p>	○	<p>積極的に外部研修へ参加する機会を確保し、全職員への研修情報の提供する等、内外研修の徹底とその記録を残してほしい。</p>
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市の介護サービス事業者協議会等での合同研修や相互の交流を通じ、サービスの質の向上に努めている。</p>	○	<p>運営者のみの交流にとどまらず、職員を含めた交流を行ってほしい。</p>
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用に至るまで、職員が本人の自宅等へ訪問している。顔馴染みになり、日帰りや宿泊体験をしてもらい、本人の納得の上でサービスの利用を決めている。場の雰囲気に馴染めるよう家族と相談しながら工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>料理の味付けや掃除などを共に行い、これまでの生い立ちからその人の生き様を学ぶことや言葉遣いを教えてもらうことも多く、職員と利用者が共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人ひとりの希望や意向を把握し、本人本位の暮らし方を支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>それぞれの担当者が、本人や家族の意向・希望を尊重しながら介護計画を立て、カンファレンスにて全職員で検討し、介護計画を作成している。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>アセスメントを3ヶ月に1回実施し、モニタリングとともに計画の見直しの参考にし、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者が入院した場合は見舞いをし、家族や医療関係者と連携を図って、早期退院に向けた支援を行っている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にし、かかりつけ医で受診できるように職員が車で送迎する等、支援している。また、月1回は協力医療機関での定期検査を行う等、緊急事態に備えた体制を整えている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に家族の思いを聴き、事務所が対応できるケアについての説明している。家族、かかりつけ医、職員等と対応についての話し合いの中で、方針の共有に努めている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	諸場面での声かけや対応については、命令口調やスピーチロックをしない等、日常的に心がけてケアを実践している。記録の内容についても職員同士が意見しあいながら記録し、プライバシーの確保に努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切にし、利用者の希望にそって支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に味付けや食事をしているが、職員は弁当を持参している。2ヶ月に1回は外食をする等、食事が楽しいものとなるように努めている。	○	利用者と職員が同じ物を食べ、同じテーブルと一緒に味わいながら、利用者にとって食事が楽しいものとなるように支援してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせて、いつでも入浴支援ができるよう体制を整えている。風呂場に男湯、女湯の暖簾を設置し、入浴を楽しめるような雰囲気作りにも配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食後の片付け、草取りや将棋、ピアノ演奏など、一人ひとりの役割や楽しみごとを支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の体調等を考慮し、近くの公園まで散歩や買い物に出かける等、希望にそった支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の施錠はないが、玄関は午後4時に施錠している。外出の察知で職員が開錠しているが、何時でも自由に出入りができる状態とは言いがたい。	○	午後4時の施錠は時間的に早すぎるのではないかと。夕方に戸外への散歩も自由にできるよう、施錠時間を検討してほしい。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携し、隣の学生寮とともに避難訓練を実施している。消火器を2箇所に設置し、避難経路の取り決め等を職員は周知している。倉庫に缶詰を保管している。	○	運営推進会議の委員や地域住民に避難訓練等の参加を働きかけをしてほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量及び水分量の記録があり、月1回の体重測定、医師による定期的検査を行い、個々の状態、変化に応じた支援をしているが、メニューの専門的なバランスチェックは行っていない。	○	最低でも年1回、栄養士等、専門家にチェックを受けるようにしてほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広くて明るく、利用者がゆっくりできるスペースがあり、常に軽音楽が静かに流れている。白いピアノや二人掛けのソファやテーブルを設置し、絵画や造花を各所に飾っている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れた家具やテレビ、また好みの物が持ち込まれている。本人にとって安心できる居室となっている。		

※ は、重点項目。